

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社フィールズ

②施設・事業所情報

名称：グローバルキッズ都筑ふれあいの丘園	種別：認可保育所	
代表者氏名：園長 松本 雄一	定員（利用人数）：80名（利用人数72名）	
所在地：神奈川県横浜市都筑区大丸9-16 第一幸喜ビル1階		
TEL：045-942-3366		
ホームページ：http://www.gkids.co.jp		
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2010年（平成22年）4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社グローバルキッズ		
職員数	常勤職員：18名 非常勤職員：8名	
専門職員	（専門職の名称） 名	
	保育士：14名	看護師：1名
	調理師：3名	
施設・設備の概要	（居室数）保育室（4部屋）、調理室、事務室、園庭、シャワー室、 （設備等）トイレ（大便器8か所、小便器4か所）	

③理念・基本方針

企業理念： 子ども達の未来のために

保育理念： 豊かに「生きる力」を育てる

保育目標：

1. 好きなことを見つけ、輝ける子ども
2. 思いやりの心を持ち、感謝できる子ども
3. 生活する中で、自分の思いを表現できる子ども

保育方針：

1. 子ども達、一人ひとりの生活リズムや発達を捉え、丁寧な保育をする
2. 自主、主体性を大切にし、使いたい時にいつでも使える環境や時間に配慮する
3. 一年を通してたくさんの本物に触れ、経験ができるよう保育を進める

④施設・事業所の特徴的な取組

- ・一人ひとりの個性を大切に、子どもを中心とした保育を行っています。
- ・子ども達がのびやかに、安心して日々すごしていけるよう、乳児クラスは子どものペースに合わせ、丁寧な保育を心がけます。
- ・幼児クラスでは『学びを生み出す保育』を実践しています。『学び』は子どもたちの遊び、生活の中にあり、『どうして?』『やってみたい』『不思議だなあ』という子どもの発信を大切に、主体性を育ててまいります。
- ・清潔な施設を心がけ、安心、安全な環境を維持し、身の清潔を整えます。また、子どもたちの心身の健康の増進に努めます。
- ・食べることを楽しみ、感謝する気持ちを育みながら、様々な食材に触れ、食に関する経験を楽しみたいと思います。
- ・子どもたちが安心して過ごせる生活の場を提供し、『嬉しい』『楽しい』『悲しい』『悔しい』等、様々な思いを自由に表現できる環境を心がけ、子どもたちの思いに寄り添い、のびやかに育ててほしいと思います。
- ・保護者の方から、保育所の職員、地域の方々と子ども達の世界はどんどん広がっていきます。気持ちのよいあいさつ、心からの『ありがとう』など、『こうなりたい』と子どもたちが思える大人の姿を見せながら、共に過ごし、人との交流・つながりをひろげていきます。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和元年5月23日（契約日）～ 令和2年2月19日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（平成28年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

1) 養護と教育の一体的展開を考慮した保育環境を整備しています

園では、毎年度初めに園内研修を行い、園の保育目標及び保育方針の実現に向けて、職員が保育の方向性について共通理解し、実践につなげられるよう取り組んでいます。

自らの保育を振り返るとともに、園長が作成した資料「mission（ミッション）」に沿って、保育者としての姿勢や「養護」と「教育」を一体的に行うために、大事にすべき事項などを全職員で確認し合っています。職員全体が園の保育目標と保育方針を共通理解したうえで、指導計画を作成し、保育の実践とその記録、振り返り、計画の見直しへとつなげています。

2) 子どもが自主的に育つように環境などの配慮をしています

ランチルームは観葉植物や絵を飾り、家庭的な雰囲気の中で全クラスの子どもたちが和やかに食事ができるようになっています。保育室は、職員が手作りの木製の棚やテーブルを子どもの動線に配慮して配置し、見立て遊びや机上遊び、製作や絵本読みなど好きな遊びにじっくり没頭できるようになっています。

子どもの年齢や発達に応じた環境構成について、職員間で話し合いながら、日々工夫を重ねて、子どもたちが心地よく過ごせる生活の場としています。興味・関心を持って自由に遊び、好きなことを見つけて、子どもたちの未来のために生きる力を育てる場としての環境整備に努めています。

3) 一人ひとりの主体性を尊重した保育を行っています

職員は、子ども一人ひとりの発達段階や生活リズムに配慮し、子どもが自分の気持ちを自由に表現したり、何をするか自分で決めたりできるよう、保育にあたることを心がけています。ままごと遊びをしていたり、職員が弾くギターに合わせて歌をうたったり、じゅうたんの上で絵本を読んだり、それぞれが思い思いに遊んでいる姿があります。

子どもたちは、職員に見守られながら、様々な経験を積み重ね、自分らしさを十分発揮して、伸び伸びと園生活を送っています。

◇改善を求められる点

1) 全職員が連携を取り合える取組みの達成

園長は週に1回、保育者同士が共通の視点を持って幼児の姿を捉えられるよう「保育カンファレンス」を検討し、情報交換できる場を設けています。また日々の子どもの気づきを記入できる「子どもノート」を用意し、いつでもだれでも書き込めるように検討しています。

園長作成の「mission」では「報・連・相」の必要性について説明しています。職種に関わらず全職員がコミュニケーションを密にとり、保護者や子どもの情報などを伝え合い、全園児の心と体の育ちを支えることが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回、評価機関の方や保護者の方からの声も参考に、改めてスタッフ全員で見直しを行うことができました。

改善点については、スタッフ間で話し合いをし、今後の課題として取り組んでいきたいと考えています。また、良い評価を頂いたことは、全スタッフの励みとなり、感謝しています。

時代が変わり、保育の考え方も変わってきているので、保護者の皆様と共に、子ども達の未来のためにより良い、保育運営を行っていきたいと思っております。

保護者の皆様には、アンケートにご協力いただきまして有り難うございました。また、評価機関の皆様には現場の声に耳を傾けて頂き、感謝しております。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり